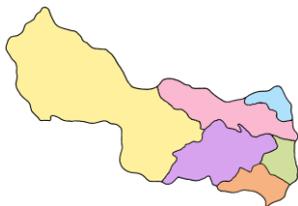




猛暑の8月が過ぎ、ようやく9月に入りました。日中はまだ残暑が続いていますが、吹く風に秋の気配が感じられるようになりました。市立図書館では、読書の秋を満喫していただくために、「秋の子どもフェスタ」や「秋のひととき朗読会」などのイベントを開催します。多くのみなさまのご来館を職員一同お待ちしております。



「徳島堰の開削者」

徳島兵左衛門

とくしま ひょうざえもん

徳島兵左衛門（生年不明）は、江戸深川（東京都江東区）に住む商人で、企業の才に富んだ熱心な日蓮宗の信者でした。

寛文元年（1661）兵左衛門は、身延山に参詣した折、巨摩郡西郡（にしごおり）には水が乏しくて荒れたままになっている広い土地があることを知ります。のちに実地測量した結果、上円井（かみつぶらい）から鰍沢まで堰を掘り開けて釜無川の水を通し、開発した新田や田に転換した畑などからの水代（水使用料）の徴収と、年貢の割り戻しを得て経営しようという計画をたてました。

領主の甲府藩へ願い出て許可を受け、寛文5年（1665）に着工し、多くの谷沢や御勅使川の横断などに苦労を重ねたすえ、寛文7年の春には曲輪田新田まで約17キロメートルの通水に成功しました。しかし工事の完成が見えてきたころ、甲府藩より契約を破棄され、甲州より退去を命ぜられてしまったのです。その後の消息については明らかではありませんが、自分の開削した堰の成り行きには深い関心を持ち続け、貞享元年（1684）に亡くなりました。

甲府藩の命を受け、兵左衛門の後を引きついで、寛文11年に工事を完成させたのが、有野村の矢崎又右衛門でした。甲府藩では、この堰を起工者の名をとって徳島堰と命名しました。徳島堰は、その水を直接利用する村ばかりでなく、「お月夜でも焼ける」と言われた、現在の南アルプス市全域にわたる扇状地一帯の土地を生まれ変わらせたのでした。

出典：『郷土史にかがやく人々 集合編Ⅲ』ほか

（※矢崎又右衛門については、次号で特集する予定です。）



徳島兵左衛門に関する本

『白根町誌』 白根町誌編纂委員会編 白根町
『郷土史にかがやく人々 集合編Ⅲ』 青少年のための山梨県民会議
『徳島堰』 三枝 善衛／編 徳島堰組合
『南アルプス市ふるさと歴史めぐり第7集』 南アルプス市郷土研究部
『西郡史話』 中込 松弥／著・中込 義守／編 西郡史話刊行会

かつやくする

図書館ボランティアのみなさん

市立図書館では、行事のとき、多くのボランティアのみなさんにご協力をいただいています。内容は、「おはなし会」での読み聞かせ、「図書館まつり」「朗読会」の出演まで様々です。

このコーナーでは活躍していただいているボランティアのみなさんを紹介しています。第5回は甲西図書館のボランティアのみなさんです。

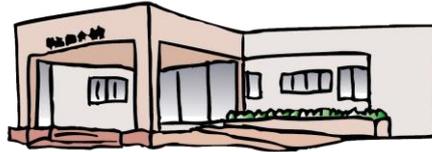


文（ふみ）の会

代表 村松 泉 会員9人

甲西図書館のリニューアルオープンをきっかけに、グループが誕生しました。毎月1回、講師の先生を囲んで、朗読の勉強会をおこなっています。

図書館主催の朗読会「ふれあい処」は、今回で8回目の出演になります。多くの参加者のみなさまに聞いていただける喜びを感じています。



ききみみずきんおはなしの会（甲西）

代表 倉本未津子 会員24人

毎年5月におこなわれる「春のおはなし会スペシャル」や、毎月第2土曜日の「ふれあいおはなし会」で、おはなしやパネルシアター、読み聞かせなどをおこなっています。

手作りの手袋人形やパネルを使って、優しく語られるお話や、楽しいわらべうたや手あそびなどは、子どもたちにとっても好評です。



そらまめくんおはなしの会

代表 廣川 由美 会員7人

「春のおはなし会スペシャル」「クリスマス会」などの図書館行事で、手あそびや大型絵本の読み聞かせなどをおこなっています。

また、「おはなし会」や「おはなし会0.1.2.」では、手袋人形やわらべうた、絵本の読み聞かせなどをおこない、参加されている親子のみなさんに大変喜ばれています。



「上八田くれよんの会」と「八田小学校」が 文部科学大臣表彰を受けました！

文部科学省では、平成14年度から子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、特色ある優れた実践を行っている学校、図書館、民間団体及び個人に対し、文部科学大臣表彰状を授与し、その実績を讃えています。

前年度の齊藤順子さんに引き続き、平成25年度は、読書活動優秀実践団体として図書館ボランティア「上八田くれよんの会」が、また読書活動優秀実践校として「八田小学校」が表彰されました。市内でのダブル受賞ということで大変喜んでいました。

上八田くれよんの会 会員 15人



昭和54年、地域の公民館に一坪図書館を立ち上げたのが会の活動の始まりです。当時は、県立図書館の本の貸し出しだけをおこなっていましたが、しだいに地域の文化活動や育成会への事業に参画するようになりました。

地域での子どもまつり、文化祭、敬老会などで人形劇の上演や絵本の読み聞かせをおこなう一方、図書館の「おはなし会」や「読書まつり」「クリスマス会」などでも、図書館ボランティアとして活躍されています。長年にわたる活動の継続と優れた実践により、今回の受賞となりました。



八田小学校

児童数 439人 教職員数 30人

八田小学校では、子どもたちが本の楽しさを味わい、すすんで本に親しむことができるようにするためには、子ども、教職員、保護者や地域の力を合わせた読書活動が大事であると考えました。

そこで、児童会、PTA、地域の組織と連携し、「朝読書」「縦割読書」「親子読書」など、さまざまな活動を推進してきました。その成果は、学校図書館の貸出数の増加にも現れてきたそうです。学校関係者ばかりでなく、地域まで巻き込んだ読書活動の取り組みが評価され、今回の優秀実践校の受賞となりました。

さまざまな読書活動

- ・ 朝読書
- ・ 家庭読書
- ・ PTA 親子読書
- ・ PTA主催親子読書の夕べ
- ・ 児童会活動の縦割班での読書
- ・ 読み聞かせボランティアとの連携



阿刀田館長出張トーク

学校図書館・市立図書館合同研修会

南アルプス市では、学校司書と市立図書館司書が、毎年夏に合同で研修をおこなっています。今年度は7月31日（水）に、県立図書館長を務める阿刀田高さんをお招きして、「これからの図書館と司書の役割」と題しての講演と、質疑応答をまじえてのフリートークがおこなわれました。

この企画は、阿刀田館長が県内の公立図書館に出向いて関係者と意見を交わす「阿刀田館長出張トーク」の一環で、阿刀田さんが国立国会図書館に11年間勤務した若い頃の思い出や、作家としての創作のアイデアのを見つけ方など、さまざまなエピソードをまじえた楽しいトークが展開されました。

講演会から

自ら本に手をのばす子ども

まわりで「あれを読め、これを読め」と無理やり読ませようとする、かえって読まなくなってしまう。自ら本に手をのばすような子どもを育てることが大切である。

図書館は、まず人！

図書館でいちばん大事なのは人！次に本、建物は3番目。まずは、働いている人が重要である。図書館員は本が好きであること。好きでなくても好きなふりをしてほしい。

また、図書館員は、学校の先生に負けないほど知的な職業である。司書という仕事に誇りを持って、知的な職業にふさわしい図書館員であってほしい。

一方、「人」の中には、図書館の利用者も含まれる。利用者が良くないとどんなに立派な図書館でも良くはならない。図書館利用者と図書館員、そのどちらもが図書館で一番大事な「人」である。



参加者の感想より

「司書は本が好きで、その喜びを伝えられる人でなければならない」「人がいて育つ」「まちづくりの基本は図書館」などの言葉は、私たち司書がこれから仕事をしていくうえで、とても励みになりました。



阿刀田館長の素敵なお人柄にふれ、こういう方がいる図書館なら、用事がなくとも図書館を“のぞいてみようかな”という気持ちにさせられると思いました。司書としての勉強とともに、人として深みのある図書館員になれるよう、日々、経験を大切にしながら頑張っていきたいと思いました。



今回の研修を活かし、これからも、学校図書館・市立図書館ともに、よりよいサービスを提供するように努めていきます。